

今年度の主要施策について

～各部の重点事業の紹介～

1. 総務政策部
2. 市民生活部
3. 健康福祉部
4. 産業振興部
5. 建設整備部
6. 浄法寺総合支所
7. 教育部

総務政策部

◎平成30年度の主要事業

(1)公民連携まち再生事業（予算額 43,300千円）

- ・先行する金田一温泉地区は、市と民間（企業、金融機関など）の共同出資によるまちづくり会社を設立

- ・金田一温泉センターの建て替えをはじめ、金田一近隣公園を、国の「パークPFI」制度を活用し、温泉と地域資源を融合させたまちづくりを推進



- ・九戸城周辺地区、天台寺周辺地区では、住民と市職員による「リノベーションスタディ」を開催し、民間の力を最大限に活用したふるさとの創生を目指す



(2)防災無線整備事業（予算額 14,800千円）

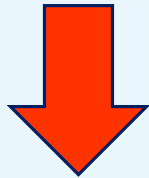
- ・災害時等における、すみやかな情報伝達の手段を確保するため、情報伝達機器の整備を行う
- ・防災行政無線設備新設整備に関する、整備方法の調査及び工事に向けた実施設計業務（委託）

市民生活部

平成30年度主要施策：ごみ減量化の推進

- 目的 ⇒ 環境負荷の低減、**処理場の寿命延伸**、**処理経費の低減**
- 現状 ⇒ 総排出量、一人当たり排出量は減少傾向（人口減少による要因も含まれる）
一人当たり処理費は横ばい（収集費、処理場維持管理費の増加）
- 課題 ⇒ 二戸地区クリーンセンター長寿化工事 事業費約34億円（15年の長寿命化）
工事後は、処理経費を小さくしながら、出来るだけ長く使う必要がある

※そのために、**市民や企業・事業者の皆さんと、ごみ減量化を進める**ことが必要



目標：年間200t（5年間で1,000t）の削減

$150\text{g} \times 52\text{週} \times 27,611\text{人} = 215.4\text{t} \Rightarrow$ 1週間にご飯茶碗1杯の減量を

本年度の取り組み

- ・ 広報、チラシ、のぼり等による**啓発・減量化に向けた意識醸成**
- ・ 草ごみ分別収集
- ・ 古着回収ボックス、リサイクルステーションの増設
- ・ **事業者等の現状把握と減量化施策の検討**
- ・ 食品ロスの啓発 など

市民や企業・事業者の皆さんと、ごみ減量化を進めるために

ごみ減量化はずっと前からの「課題」

これまで、リサイクルや分別収集などを行ってきたが「解決」していない

なぜ「解決」しないのか？

市民生活部の業務は定型業務が主で、成果は「意識や行動の変化」でしか測れないのに、
施策が「意識や行動を変える」組み立てになっていない

⇒ 市民に伝わり行動を起こしてもらえる取り組みを進める（職員の意識改革）

例えば、啓発・情報発信を見ると・・・

これまで ⇒ 広報やポスターでの啓発・情報発信が「行政目線で一方通行」
その結果、期待する行動・効果が現れていない

原因 ⇒ 受けて側からの視点が不足、やりっぱなし
前例踏襲、形式重視による「業務」「組織」「人」の循環不良
行政の独りよがり、自己満足、アウトプットだけの検証・・・など

**※効果の測定・分析がされていないために、
ニーズの変化に対応できていない**

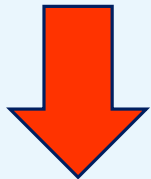
これから ⇒ 市民に行動を起こしてもらえる、
「市民に伝わる・行動を促す」ための取り組みを進める

…ということで、ちょっとした「ネタ」を2つ紹介します。

その1

これまで（正しい情報を的確に）

- ⇒ 「ごみ処理経費が大きいので、ごみの減量を進めましょう」
年間処理経費 3億7千万円、市民一人あたり13,000円…、水分を切ることで…
↓
受け手の感覚：「ふ～ん（大きすぎて実感がない）」
「月1,000円くらいでしょ？」「誰かやってるし」



同じ内容だとしても
比較できて「えっ？」「高い」と感じ「どうにかしなきゃ」と**考えてもらえる表現に**

これから（受け手の印象に残る表現で）

- ⇒ 「ごみ処理経費が大きいので、ごみの減量を進めましょう」
年間処理経費 3億7千万円
これは**年収500万円で74年間分**（22歳～96歳まで）・・・
- ⇒ 「ごみ処理経費が大きいので、ごみの減量を進めましょう」
年間処理経費 3億7千万円のうち、
1億5千万円はごみに含まれる水分の処理経費で・・・

その2

カレーを作るために「人参」が**2本必要**なので、スーパーで買うことにしました。
売り場には「**3本 198円**」と「**1本 78円**」がありました。
1本あたりにすると3本パックの方が安いので、そちらを**購入**しました。
カレーに2本使い、**残った1本は冷蔵庫**に入れておきました。
しばらくして気がつくと**冷蔵庫の人参が傷んでいました**。仕方がないので**ごみとして捨てました**。



食品ロスの「直接廃棄」ですが、家計と市財政の負担は

人参を1本（約150g）捨てることで、
家計では、42円（198円－78円×2本）
市財政では、6.3円（H29処理経費 41.9円/kg×0.15）

1世帯・1回あたりだと「大したことない」と感じると思いますが、

もし、**市内のすべての世帯が、2週間に1回同じことを1年間**したら、
家計では、12,957,672円（42円×26回×11,866世帯） ⇒ **これを外食にまわすと、**
市財政では、1,943,651円（6.3円×26回×11,866世帯） **お店は喜ぶでしょうね**

だれでも出来て、長く続けられる「減量化」の取り組みを進めて行きたいと思います。
アイディアの提供をはじめ、みなさまのご協力をよろしくお願いします。

健康福祉部

◎平成30年度の主要事業

(1)地域包括支援推進事業（予算額 15,191千円）

- ・高齢者の自立した生活支援を図るため、地域課題の抽出と課題解決に向けた協議体の設置運営と生活支援コーディネーターの育成支援を行う
- ・認知症支援のため、初期集中支援チームの設置とともに、セミナー等により認知症の理解を深める
- ・緩和された訪問型サービスを実施して、増加が予想されるサービス利用者への対応を図る

(2)病児等保育事業（予算額 34,087千円）

- ・病児保育施設（愛称：あいほっと）で隣接する小児科医院の医師と連携し、病児保育事業を実施
- ・集団保育ができない病中、病後の子どもを専用スペースで一時的に預かることで、働く親等の子育てと就労の両立を支援



(3)特定健康審査受診率向上対策事業（予算額 6,530千円）

- ・生活習慣病を予防するため、メタボリックシンドロームに着目した健診を市内各地区で実施
- ・健診受診率46%を目指し、福岡・金田一地区を重点地区に定め、ハガキやポスター、電話等による受診勧奨のほか、健康づくり意識を高めるため、にのへ健康マイレージ事業をあわせて実施

産業振興部

◎平成30年度の主要事業

(1)観光地づくり推進事業「いわて型テロワールプロジェクト推進事業」 (予算額 133,903千円)

(内訳) 地域経済牽引事業補助金 100,000千円、にのへ型テロワール推進事業委託料 33,903千円

- ・ハード事業…県の承認を受けた地域経済牽引事業計画に基づき、市が地方創生交付金を活用して、事業者に対して支援する。
- ・ソフト事業…「にのへ型テロワールによる地方創生プロジェクト」を、稼ぐ観光地づくり推進における重点事業に挙げ、プロジェクト推進にかかる戦略策定やマーケティング調査による基盤整備を行う。



(2)農地整備事業 (予算額 109,900千円)

(内訳) 県営担い手育成畑地帯総合整備事業 43,400千円、農地整備事業(川又地区) 58,500千円
県営農地整備事業調査事業(福田、山内地区) 8,000千円

- ・農業経営の安定化及びコスト軽減を図るため、農道及び農地等の生産基盤を整備する。

(3)農業農村直接支払事業 (予算額 157,987千円)

(内訳) 多面的農地維持・市原稿場対策事業 86,224千円、中山間地域等直接支払事業 68,313千円
環境保全型農業直接支援対策事業 3,450千円

- ・農業・農村の多面的機能の維持・発揮を図るため、それを支える地域活動、農業生産活動の継続、自然環境の保全に資する農業生産活動を支援する。

建設整備部

◎平成30年度の主要事業

(1)道路新設改良舗装事業（予算額 503,300千円）

- ・未舗装路線の整備、橋梁補修等を実施



○新設改良舗装事業

（道路改良や舗装工事など）

白鳥線、槇木米内線、上東線、中村杉中線（通称国体道路）、下構中田線、馬場長瀬線 予算額：269,300千円



○橋梁補修事業

（老朽化した橋梁の補修）

大築橋、坂田橋、春吉橋、不動橋、沢口橋、斗米橋

予算額：234,000千円



○舗装・排水、法面補修

（老朽化した道路施設の維持補修）

舗装、排水：14路線 約1,600m

法 面：馬場大谷地線

予算額：103,600千円

(2)新幹線二戸駅周辺地区土地区画整理事業（予算額 699,000千円）

- ・事業の早期完了を図るため、整備区域の優先順位を決めながら計画的な整備を推進

(3)下水道整備事業（予算額 330,400千円）

- ・公共下水道計画に基づいた計画的な整備を推進

浄法寺総合支所

◎平成30年度の主要事業

(1)ウルシ原木安定確保事業（予算額 10,899千円）

- ・ 原木調査結果を基に、将来的な原木の安定確保に向け、広域的な観点でのウルシ植栽計画を策定
- ・ 新たに漆林緊急整備事業を実施することにより、保育管理への支援を強化するとともに、農地への植栽を促進
- ・ 原木管理システムを運用し、漆林の所有者等への適正な保育管理について啓発を推進

(2)漆関連産業後継者確保事業（予算額 50,967千円）

- ・ 森林フォレスターとして苗木生産研修を主体とする協力隊1名を採用し、浄安森林組合で研修を実施
- ・ 協力隊（うるしびと）3名を採用し、日本うるし掻き技術保存会の研修生4名と併せて漆掻き研修を実施
- ・ 平成28年度採用のうるしびとの任期が満了となることから漆掻き職人として定住できるように支援を実施
- ・ 木地研修生については、引き続き洋野町の工房において通年での研修を実施



(3)まちなか賑わいづくり創出事業（予算額 未定）

- ・ 浄法寺総合支所周辺地区へ公共施設等を再編し、集約化するにより、施設の有効活用を図るとともに、小さな拠点づくりによる中心部を核とした地域の賑わいづくりを創出



教育部

◎平成30年度の主要事業

(1)学力向上推進事業（予算額 3,677千円）

- ・東京学芸大学との連携事業等を展開し、教員の授業力向上と児童、生徒の学力保障を図る。



(2)史跡九戸城跡整備事業（予算額 40,537千円）

- ・平成30年3月に策定した、史跡九戸城跡第2次整備基本計画に基づく、第2期整備基本設計を行う。
- ・史跡指定地内の公有化を進める。

(3)天台寺修復事業（予算額 31,401千円）

- ・重要文化財天台寺本堂及び仁王門保存修理工事ならびに、防火施設等の整備工事への補助を行う。

